

資料・統計

2002年婦人科入院悪性腫瘍統計

Annual Report of Gynecologic Malignancies in 2002

児 玉 省 二 高 橋 威 本 間 滋
 笹 川 基 西 野 幸 治 生 野 寿 史
 Shoji KODAMA, Takeshi TAKAHASHI, Shigeru HONMA,
 Motoi SASAGAWA, Koji NISHINO and Kazufumi HAINO

要 旨

2002年に当科で入院治療を行った悪性腫瘍患者について、疾患別ならびに臨床進行期分類別の症例数と年齢および治療内容について集計報告する。入院以外の外来治療例は本統計には含まれていない。

1. 入院全悪性腫瘍患者

2002年に入院治療した悪性腫瘍の新鮮例は、子宮頸癌85例、子宮体癌20例、悪性卵巣腫瘍32例、卵管癌1例、原発不明の腹腔内腹膜偽粘液腫1例の合計139例であった。

最近5年間の子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌の年次別推移では(表1)、1998年は子宮頸癌57例(上皮内癌18例、浸潤癌39例)、子宮体癌25例(癌22例、肉腫3例)、悪性卵巣腫瘍31例(境界悪性5例、悪性26例)であった。そして、2002年には子宮頸癌88例(上皮内癌38例、浸潤癌50例)、子宮体癌20例(癌20例、肉腫0例)、悪性卵巣腫瘍32例(境界悪性7例、悪性25例)となり、子宮頸癌の上皮内癌と浸潤癌がともに増加したのが特徴的であった。

2. 子宮頸癌

表2は臨床進行期別症例数と年齢(平均年齢、年齢分布)の関連を示しているが、0期(上皮内癌)は、

38例、平均年齢41.1歳、年齢分布21-72歳であった。Ia期(全例がIai)の初期浸潤癌は、14例、平均年齢43.8歳、年齢分布28-68歳であった。この両進行期は全体の60%を占めているが、若年者であれば子宮温存が可能な段階である。そして、進行期が進むに従って高齢となり、全体では平均年齢48.9歳、年齢分布21-89歳であった。

治療内容では(表3)、手術例は75例で全体の88.2%を占め、その内容は円錐切除単独27例、単純全摘26例、準広汎全摘5例、広汎全摘20例で、このうち円錐切除術が最も多く全体の34.7%を占めていた。放射線療法は9例で、単独5例、化学療法併用4例であった。遠隔転移で化学療法が単独で行われたのは1例であった。

3. 子宮体癌

表4は臨床進行期別症例数と年齢(平均年齢、年齢分布)の関連を示しているが、Ia期1例、Ic期1例はいずれも50歳未満であり、最も多いIb期は10例で

表1 入院悪性治療症例(子宮頸部、子宮体部、卵巣)の過去5年間の年次別推移

臓器	病変	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年
子宮頸部	上皮内癌	18	18	16	36	38
	浸潤癌	39	20	25	22	50
子宮体部	癌	22	17	18	34	20
	肉腫	3	1	2	1	0
卵巣	境界悪性	5	3	2	3	7
	悪性	26	25	18	20	25
合 計		113	84	81	116	140

表2 子宮頸癌の臨床進行期別数と年齢

進行期	症例数	平均年齢	年齢分布
0	38	41.1	21-72
I a	14	43.8	28-68
b	20	50.7	29-81
II a	3	59.7	50-67
b	5	72.2	48-89
III a	0	-	
b	3	67.7	53-83
IV a	0	-	
b	5	71	59-78
合計	88	48.9	21-89

表3 子宮頸癌の治療内容

治療内容	症例数
手術療法	
円錐切除	27
単純	26
準広汎	5
広汎	20
照射療法	
単独	5
化療併用	4
化学療法	
単独	1
合計	85

表4 子宮体癌の臨床進行期別数と年齢

進行期	症例数	平均年齢	年齢分布
I a	1	40	40
b	10	61.6	40-78
c	1	49	49
II a	0	-	
b	0	-	
III a	4	55.5	51-60
b	0	-	
c	3	66.7	59-72
IV	1	61	61
合計	20	59.4	40-78

平均年齢61.6歳、年齢分布40-78歳であった。II期例はなく、IIIa期は4例でその平均年齢55.5歳、年齢分布51-60歳、IIIc期は3例でその平均年齢66.7歳、年齢分布59-72歳であった。全体では、平均年齢59.4歳、年齢分布40-78歳であった。

治療内容では(表5)、全ての症例に手術がなされており、そのうち手術単独が10例で全体の半数を占め、highrisk groupの10例には化学療法が併用された。

4. 卵巣癌

表6は臨床進行期別症例数と年齢(平均年齢、年齢分布)の関連を示している。境界悪性腫瘍は、Ia期5例の平均年齢56.0歳、年齢分布26-85歳、Ic期2例の平均年齢28歳、年齢分布22-34歳であった。悪性の浸潤癌は、Ia期9例の平均年齢57.2歳、年齢分布

表5 子宮体癌の治療内容

治療内容	症例数
手術単独	10
化療併用	10
合計	20

表6 悪性卵巣腫瘍の臨床進行期別数と年齢

悪性度	進行期	症例数	平均年齢	年齢分布	
境界悪性	I a	5	56	26-85	
	b	0	-		
	c	2	28	22-34	
悪性	I a	9	57.2	29-87	
		b	0	-	
		c	4	60.8	53-71
	II a	0	-		
		b	1	45	45
		c	2	66	55-77
	III a	0	-		
		b	1	40	40
		c	2	60	58-62
IV	5	54.4	40-69		
	不明	1	72	72	
合計		32	55.5	22-87	

不明：腹膜偽粘液腫 1例

表7 悪性卵巣腫瘍の治療内容

治療内容	症例数
手術単独	16
化療併用	13
化療単独	2
無	1
合計	32

29-87歳、Ic期4例の平均年齢60.8歳、年齢分布53-21歳であった。II期では、IIb期の1例は45歳、IIc期の2例の平均年齢66歳、年齢分布55-77歳であった。III期では、IIIb期の1例は40歳、IIIc期は2例で平均年齢60.0歳、年齢分布58-62歳であった。IV期は5例で、平均年齢54.4歳、年齢分布40-69歳で、全身状態が不良で開腹手術ができず進行期不明な1例は72歳のあった。全体では、平均年齢55.5歳、年齢分布22-87歳であった。

治療内容では(表7)、手術単独で終わったのは境界悪性全例と浸潤癌9例の合計16例であった。化学療法が併用されたのは13例、試験開腹術後に化学療法が中心に行われたのが2例で、全身状態不良で治療できなかったのが1例であった。